カンボジア短信 ： 2016－№.7（3月下旬・4月上旬）

22. APR. 16

小島正憲

1. 労務省が縫製セクターで美人コンテスト、物議をかもす

労務省は、縫製業労働者たちの美人コンテストを再び行うことを決定。しかしこのコンテストは、縫製セクターのイメージアップに繋がるどころか逆効果である、と労働組合や評論家はコメントする。政府は、今回のコンテストにおいて、昨年と同じくGMACとPNNテレビとタッグを組む。昨年は優勝者には300ドルが賞金として送られており、これは月140ドルの縫製業最低賃金の2倍以上の額である。

今年のコンテストは、”縫製セクターに美しさを”という目的が掲げられ、参加資格は身長 158cm 以上(男性は 162cm)であること。 Solidarity Center の William Conklin 氏は、「労務省は、縫製セクターのイメージアップを図っているようですが、コンテストよりももっとやるべきことがあるはずです。通勤手段の安全を確保したり、仕事中に彼女たちが意識を失う原因をつけとめたり、いろいろあります」と話した。例えば昨年 Svay Rieng 州では、縫製労働者たちの乗ったバンが事故を起こして、18 人が命を落としている。Conklin 氏は、「注意を向けるべきは、労働者たちの賃金です。残業量に合わせて増やし、工場の暑くて狭苦しい環境もなんとかしなくてはいけません。たくさんの人々は、コンテストはとても無意味で、女性の扱いを軽視している、と考えています。もし、このコンテストに多くの女性が申し込んだとしても、それは彼女たちが労務省の考えに賛同しているからではありません。どんな手段を使ってでもお金を得なくては、という絶望感の表れではないでしょうか」と話した。

しかし、縫製業に勤める25歳の Sous Vanna さんと、27歳の Sem Thouen さんは、「私たちは、コンテストに参加して、全国へ向けて発信できる貴重な機会を生かしたいと思っています」と話した。Vanna さんは、「縫製業で働く私たちがテレビに出られるチャンスはあまりありません。ただ、容姿を見てもらいたいという気持ちで参加するのではありません。私たちがどんな仕事、生活をしているのかを人々に知ってもらいたいのです。縫製業で働くということは苦労の連続ですから」と話した。野党の弁護士で女性の権利活動家 Mu Sochua さんは、「美人コンテストは大変みっともないように思えます。もし、本当にされるべきコンテストがあるとすれば、それは工場に発注する各ブランド企業で一番良い賃金を競う、というコンテストです。彼女たちの生活を一体誰が一番考えてくれるのか、ということです」と話をした。C.CAWDU 代表の Ath Thorn 氏は、「コンテストを行うことは、縫製セクターの宣伝効果、また、縫製労働者たちの美しさを公にできる、という点では良いと思います。でも、労働者が行うべき一番の優先事項は、彼女たちの賃金や労働環境の問題に取り組むことです」と話をした。

2. 猛暑期を迎えて労務省が警告

猛暑期を迎え、労務省は縫製セクターに関わる人々に対して、労働者の健康管理をきちんと行うように、と訴えかけた。勤務が始まる遅くとも 1 時間前には室内の換気を開始し、空気の循環が滞らないように注意し、また、ドアや窓や開けっ放しにするように注意した。他にも、綺麗な飲み水を提供し、消化器の点検、避難訓練などを行うように促した。今回警告された内容のほとんどは、もとから労働法に盛り込まれている内容である。しかし、気温が上がるにつれて、労働者たちはより体調を崩しやすくするため、再度念入りに確認するように、ということだ。

Collective Union Movement of Workers 代表の Pav Sina 氏は、「労務省は、抜き打ち検査をして、労働法がきちんと遵守されているかをチェックするべきです。今後、暑さを軽減するために何か設備を買ったりする縫製工場はあまりないと思います。多くは工場を賃貸で借りているので、出費をさらに高めることはしたがりません」と話した。The National Social Security Fund は、去年は計 1806 人の労働者が倒れたと報告。その前年もだいたい同じくらいの数値であった。GMAC の Ken Loo 氏は、「労働者たちが倒れていくのには色々な理由があります。今月はプノンペンで 80 人ほどが倒れましたが、これは換気の不足が原因でした」と話をした。

3. 労働組合、首相との直接会合を求める

Facebook を通じてフンセン首相に書類を提出したものの、返事をもらえなかった労働組合のグループが、労働法改正について首相と直接話したい、という訴えを、閣僚評議会に持ち込んだ。彼らは、来月国民議会で行われる労働法の投票前に、どうしても首相と会いたいのだという。組合は、「改定されるべき箇所がまだ 12 点残っています。それに、現段階の法案は、労働組合の能力を制約するような法律を認めない、国際的な標準に反している」、と訴えている。Coalition of Cambodian Apparel Workers’ Democratic Union の Ath Thorn 氏は、「組合の内部で問題が起こったときに雇用者や自治体が介入できるという案ですが、これはとても心配しています」と話した。閣僚評議会で、外部からの訴えを扱っている部署の Sen Savorn 氏は、「組合が提出してきた書類を、まずは上の人間にチェックしてもらいます。フンセン首相はオープンな心を持った方なので、組合や労働者を威圧したいという意図は持っていないと思います」と話した。

4. 縫製工場で死亡した女性の遺族、補償金を争う

Kandal 州の Kien Svay 地区にある縫製工場では、労働者の女性が先週、残業中に死亡した。夫の Chhin Phern さんは、「亡くなった妻(Sambath さん 34 歳)は 3 月 14 日、病気だと言って工場の早退を願いでたものの、工場側は早退どころか 2 時間の残業を強制した。その結果、彼女は死んでしまった。妻はあの工場に 1 年以上も務めていました。残業中に彼女が倒れたと同僚の子が電話をくれて、私は急いで現場に行き、妻を病院に連れて行きました。でも、そのまま帰らぬ人となりました。それから 1 週間以上たちましたが、工場を経営する Somrong Thom 社はなんの補償金も支払っていません」と話す。Free Trade Unio 代表の Chea Mony 氏は、遺族とすでに面会しており、今後補償金を支払わせるため自治体に訴えるという。「労働者が体調不良を感じて残業は出来ないというのであれば、会社はその通りに彼女を返す義務があります」と彼は話した。しかし昨日、工場の代表者 Tiem Kosal さんは、「Sambath さんが亡くなったのは、彼女のもともとの健康状態が問題でした。会社が残業させたことが、彼女の死に影響を与えたとは思いません」と話した。遺族は、「Sambath さんは何も大きな病気などもっていなかった」、と話している。

5. 労働法改正の投票前に、計画的デモ

カンボジアの独立系労働組合が昨日、4 月 4 日に予定されている、労働法改正に関わる投票を前に、組合グループで結託して、デモ活動を行おうとしているようだ。彼らは、投票前日の日曜日に約 130 箇所の工場でデモ活動をし、投票当日にも国民議会前でデモを行うという。先月、国際的な人権団体の支援の声をうけた彼らは、「ポスターやバナーを持ってみんなでデモをして、自分たちは改正内容に反対だという主張を、それぞれの勤める工場にて行います。大規模ですが、平和的にします」と話しをした。

Collective Union of Movement of Workers の Pav Sina 氏は、「この計画によって、政府や自治体の取り締まりも考えられます。そういう時に備えて、準備をし、計画しないといけないのです。行動を起こすことによって、国内からも国外からもプレッシャーを与えることができます。可能性は低いですが、もしかしたら、考え直してくれるかもしれません」、と話した。しかし、Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union 代表の Ath Thorn 氏は、「たとえ政府が現段階で、法改正について再考してくれたとしても、そのために投票日を延長するという可能性は、正直低いと思います。でも、実際に法が改正され施行された後にでも、まだ私たちの意見を取り入れてくれる可能性は残るでしょう」と話をした。

6. 労働法案投票を前に、労働者たちがストライキ

独立系の労働組合と NGO は、3／28、およそ 100 箇所の工場において、バナーやポスターなどを掲げたデモ活動を行った。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union の Ath Thorn 氏によると、デモのあった州はカンポット、シハヌークビル、プノンペン、カンダルの 4 箇所だ。先週の会議において、彼らは新たな労働法案に異議を唱えるため、平和的だが大規模なデモを段階的に行うことを決定していた。法案投票の行われる当日には、国民議会に集まり行う予定だ。Ath Thorn 氏は、「今日、私たちは縫製セクターだけではなく、建設や観光業で働く人々からも支援の声をもらいました。彼らの想いも胸に、私たちは政府を説得します。法案は再考されるべきもので、まずは投票日の延長をしてもらわなくてはいけません。自治体や、工場のオーナーたちは私たちが昨日 20 分間だけ行ったデモに興味をもったようです。このデモは昼休憩の間だけ、しかもいたって平和的に行われたものです。彼らは私たちの掲げるバナーやポスターをみて、なにをやっているんだ、と聞いてきました」と話した。また、Cambodian Alliance of Trade Unions の代表 Yang Sophorn 氏は、「私自身は昨日のデモには参加していませんが、今後 31 箇所の工場で、同じようにデモを行う予定です」と話をした。

7. 雇用者側も、労働法案へ異議

GMAC と Cambodian Federation of Employers and Business Associations (CAMFEBA)が記者会見を行い、労働法の改正案に対する見方を表明した。それは、"労働組合を処分する権利は現在、裁判所のみに与えられているが、労務省もその権利を与えられるべきである"という主張だ。「労働組合が違法な手段で妨害することがあった場合、現状は裁判所の判決を待つのに時間を要しています。そのため労務省の判断で、処分を行えるようにするべきだと思います」と CAMFEBA の代表 Van Sou Leng 氏は話した。また、これ以外にも、労働組合を結成する際の最低必要人数を、現状の 10 人ではなく、工場の労働者の 20 パーセント以上にするべきだ、とも主張。また、逆に、ストライキを合法で行うためには、最低でも労働者の半数プラス一人の賛同が必要である、という点は同意した。Solidarity Center の地域部長 William Cocklin 氏は、「ILO は、ストライキを行う際の人数制限などに関して特定の条項を定めてはいませんが、半数プラス一人以上の賛同が必要になったことで、組合の意見は制限されやすくなるでしょう」と話した。

8. メイドの違法派遣をしていた人材会社の職員に非情な判決

3／24、プノンペン裁判所は、人材会社の職員に懲役7年の刑を言い渡した。彼女は、6人のカンボジア人をメイドとしてマレーシアに派遣していた。27歳のTran Sok Channyさんは、裁判所が判決を言い終えたあと、携帯電話を握りしめて涙を見せた。Tran Sok Channyさんは、人材会社のHRDに勤めていた。HRDのオーナーであるHeng Samnagはいまだに逃亡中である。裁判中にChannyが話した内容では、月々に給料として300ドルを受け取る代わりに、彼女はメイドとして派遣する女性たちの世話を焼いていたという。裁判所は、メイドとなった6人のうち4人に、それぞれ500ドルを支払うことを命令。残りの2人は、カンボジアで裁判を行うよりも、タイに行き別の仕事を探すことを優先したという。Channy の友人であり裁判を傍聴していた男性は、彼女は離婚した貧乏な女性で、情けをかけるべきだと話す。「この判決は、彼女にとって大変辛いものです。彼女はただのスタッフで、仕事を求める人々に食事をつくったり、施設を提供していたりしていただけです。彼女の親戚も貧乏で、ここにくるだけのお金もありませんでした。私は彼女がかわいそうでならず、食べ物を持ってきています」と友人は話した。

9. 三井住友建、カンボジアで上水道拡張工事受注＝総額21億円

4／11、三井住友建設は、タイとの国境に近いカンボジア・カンポット市の上水道拡張整備工事を受注し、このほど発注者の同国工業・手工芸省との間で工事契約に調印したと発表した。工事は日本の無償資金援助を受け実施されるもので、請負金額は21億円。カンポット市の上水道施設建設計画に基づき、日量8250立方メートルの取水施設、同7500立方メートルの浄水場を新設するほか、5キロの導水管と94キロの配水管を敷設する。三井住友建は水道インフラなどを手掛ける水ing（東京港区）との合弁で工事を受注した。

《カンボジア正月にまつわる伝承》

昔々、ある村には美貌を持ち才能に溢れ、賢く裕福に生まれたトマバル・コマーという青年がいました。幼少の頃から周囲の誰よりも賢く、7歳になる頃には経典にも精通しました。しかも動物の言葉も理解できます。彼は長じると高名な祈禱師になりました。彼の名は神界にまで伝わり、カバル・マハー・プロムの耳に入りました。

カバル・マハー・プロムとは、古代インドにおいて万物の根源とされたブラフマンから転じた古代の創造神ブラフマーのことです。ヒンズー教では、ヴィシュヌ（維持）、シヴァ（破壊）と共に三大神となりました。日本では仏教に転じて梵天として知られています。（以降は梵天と記載）

梵天はコマーの賢さを試したく、神界から地上に降臨します。そして、コマーに会って、3 つの質問をしました。そして、質問に回答できたら自身の首を切り、頭を差し出そう、しかしコマーが回答できない場合には、自分の首を切って梵天に差し出すのだと強要します。梵天の質問は、人間の幸福とは、朝、昼、そして夜のそれぞれに何処にあるのかというものでした。

梵天は、7 日後に答えを聞きに来ると言い残して消えますが、6 日間が過ぎてもコマーは答えがわからず、村外に逃げ出しました。そして歩いている途中に疲れ、椰子の木陰で休息をしていると、雄鷲と雌鷲の声が聞こえてきました。雄鷲は雌鷲に、「明日は美味しい食事にありつけそうだ。コマーは梵天の質問に答えることができず、自分の頭を差し出すのだ。残った胴体は我々の食事だ」と語っています。雌鷲は雄鷲に、「どんな質問だったのかしら。それは難しい質問なの？」と問いかけます。雄鷲は、簡単な質問だよと答えます。「人間の幸福は、朝には人の顔に宿る。だから、朝には必ず顔を水で洗うのだ。幸福は昼間には胸に宿る、だから水を浴びるのだ。そして、夜には人間の幸福は足に宿る。だから、寝る前に必ず足を洗うのだ。」コマーはあらゆる動物の言葉が理解できるので、その鷲の会話を聞いて非常に喜びました。

翌日、梵天は再び降臨し、コマーに答えを求めます。そして、コマーは3つの質問全てに答えます。お前が知り得ることではないと梵天は怒り出しましたが、自身の神としての誓言が彼の首を切り取ります。その際に、彼は自分の 7 人の娘に伝えました。自分の頭を地上にそのまま置いたら、地上が燃え尽きてしまうだろう、空に置いたら雨が降らないだろう、海に置いたら海が干上がるだろうと。

父神の頭を受け取った長女トンサデヴィは翌年から、父神の頭をその年の正月を担当する妹に引き継ぐことにしました。梵天の頭が地上に災厄をもたらさないように、新年元旦の曜日を担当する娘の一人が、昨年担当の娘から梵天の頭を引き継ぎ、年越しの際には地上にある最も高い山（一説にはカイラス山）を廻って祈り、最後にその頭を山頂にある寺に祀ることになったのです。

梵天の娘である女神(テヴァダー)が地上に降臨する時間は、宮廷の占い師が決めると言われています。古来は太陰暦に連動して、惑星の位置などをもとに日時が決められていたようですが、近年は太陽暦 4 月 13 日もしくは 14 日を正

月とする設定を優先するために、古来の伝統は失われたと言われています。ちなみに、カンボジアやタイでは釈迦が入滅した翌年を仏滅元年としていますが、ミャンマーやスリランカでは入滅した年としているため、そもそも国によって仏暦の年数そのものも国によって１年ずれているようです。

梵天の 7 人の娘の名前と曜日の担当、女神へのお供え物は下記の通りです。 カンボジア女性が伝統行事で着る服の色は７色あり、曜日によって異なるのですが、こういった伝承とも関係があるとも言われています。

日 トンサデヴィ、ルヴィア（熱帯に育つイチジク属クワ科の木の実で毒がある）
月 コリキァクデヴィ、油
火 ラクサデヴィ、鮮血
水 モンディアデヴィ、鮮乳
木 キリニデヴィ、豆と胡麻
金 キミラデヴィ、バナナ
土 モホトリアデヴィ、羚羊の肉

今年の元旦は水曜日なので、モンディアデヴィが降臨し、ラクサデヴィから父神の頭を引き継ぎます。お供え物は鮮乳ですが、近年は転化して、名前が由来するミルクフルーツなども供えられます。その他の女神へのお供え物ですが、ルヴィアには毒があり、その年は賄賂が横行し貧富の格差が広がると言われています。鮮血は災いが降りかかり戦争や紛争のある年、羚羊は病気が流行する年と言われています。

この伝承で伝えられる時期がクメール族の正月となりましたが、その開始時期は不明です。元旦のことをマハー・ソンクランと言いますが、これは古代インドのサンスクリット語マハー・サンクランティが語源です。クメールの歴史は、インドに加えて中国からも文化的影響を受けており、日本の神仏習合のように、古代インドのバラモン教やヒンズー教、そして現在の国教である上座部仏教などが融合し、独特の解釈や物語が育ち、残されてきました。ちなみに、バンコクで最も有名なエラワン廟に祀られているのもこの神様です。日本でも伊達政宗の幼名梵天丸の由来であるなど、様々な国の伝承と繋がっています。

以上